No.とプログラム名	**No. 39　学芸員の仕事を体験してみよう！**
実施日・回数	８月７日（水）午前、午後　（計２回実施）
会場	【中区】横浜人形の家　４階ホワイエ
参加児童数	18人（午前８人、午後10人）当日欠席２人
企業・団体等名	横浜人形の家
参加の目的 （150文字程度）	横浜市の施設として、人形文化や「まもり・しらべ・つたえる」学芸員の仕事等を地元の小学生に知ってもらうきっかけづくりとして実施。

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2024

■ プログラム内容

　博物館は大事なものを集めて・守って・調べて・紹介しています。その仕事を主に行うのが「学芸員」。ふだんあまり知る機会のない仕事を知って、その一部を体験してみました。
　今回は「横浜開港人形」をテーマとしました。

■ 当日の流れ

　まず「横浜人形の家」「学芸員」についてレクチャー。次に関東大震災の復興期、横浜開港期の人々をモデルに作り始められた「横浜開港人形」を知った後、開港人形を含めた常設展示を、解説を聴きながら一周。小休憩後、いま伝えたい「横浜で暮らす人」を考えてカードを作り発表。
また、実際の開港人形をその石膏型を手にとって、作り方や博物館資料の取扱いの基礎を学びました。
その後、カードをバランスを考えながら額装。
10月末まで常設展示室に展示しています。

全体レクチャーの様子　博物館の仕事だけでなく
開港や関東大震災と横浜についても学びました

常設展示室で「開港人形」をはじめとした
人形たちを観ながら説明を聴きました

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2024

■ 参加児童の様子や意見、感想など

　初めは緊張気味でしたが、個別に話しかけると応え、課題について質問も出るようになりました。館内見学の際は声をかけても遠巻きにする児童も少しいましたが、課題の説明はきちんと理解していました。

　人形（デザイン）を考える課題では、有名人や横浜ならではの仕事をする人を選ぶことを想定していましたが、身近な人（先生や親、街で見かける人）を選ぶ児童が大半でした。日常的に周りの大人をよく観ていて、自分もそうなりたい、という憧れや感謝の言葉が出ました。

こんな人形を…と決めたら一気に
カードを書き上げました

　人前で一人ずつ発表することには慣れているようで皆スラスラと話しましたが、最後に課題を展示するためのグループディスカッションとなると全く意見が出ず、時間がないので受入側が主導するかたちとなりました。早い段階で一度周りと意見交換する機会を設けていればよかったかもしれません。

　「講話」の際は付添の保護者を含めて皆真剣に話を聴いていました。小休憩を三度挟みましたが、全体として集中力を持続して取り組むことができたと思います。

午前／午後それぞれ、完成したカードを
額に並べて貼ります。
色や内容のバランスを考えながら！

■ 企業・団体の気付きや感想など

３年生から６年生ですと知識や理解の差が大きいため今年は４年生以上としましたが、昨年と比べて課題設定と進行のしやすさという点では正解だったように思います。

プログラムを終えて、子どもたちが身近な大人をよく観ている一方、外から見た、あるいは特徴的な「横浜らしさ」に具体的なイメージをもっていない（具体例が挙がらない）こともうかがえました。一方で「学芸員」という専門職種をあらかじめ知っていて今回応募の動機となっていた児童が３分の２を占めており驚かされました。

もともと学芸業務を小学生に２時間で体験してもらうのは難しいので、かなりスポイルした内容になるのですが、この年齢に合わせ、かつ子どもアドベンチャーカレッジの趣旨に沿う課題と進行を、再度練り直す必要があると感じました。

今回の参加児童が、この体験をきっかけに人形の家をまた訪れたり学芸員への関心を深めたり、将来インターンシップなどで関わったりすることになればとても嬉しく思います。

各自、作成したカードを見せながら内容発表。しっかり話せました。

皆のカードを入れた額を囲んで、記念撮影。お疲れ様でした！